

地震津波対策の課題・検討事項は

災害弱者の避難対策など検討

防災対策



小林 隆 議員



災害弱者の迅速な避難が今後の検討課題
(昨年行われた総合防災訓練の様子)

質問 地震津波対策について、次の点を問う。

- ① 過去の訓練での問題点は、避難通路の確保と避難標識の設置は。
- ② 避難所で耐震診断を必要とする施設は。
- ③ 緊急物資の確保は。
- ④ 子供達の防災訓練への参加指導は。
- ⑤ 課題、検討しなければならぬ点は、「町民の参加が少ない」「一人暮らしの高齢者や障害者、身体の不自由な人の迅速な避難」「訓練の日時や内容の見直し」などである。

② 避難通路は、広報などを通じて地区住民に周知。

- ③ 避難標識は、各地区には設置しているが、設置箇所と数の見直しも必要。
- ④ 該当施設は四施設あるが耐震診断は行っていない。
- ⑤ 備蓄している非常食は、レトルト食品約一千食、乾パン五百缶、簡易トイレ二千人分、毛布六百十枚などである。
- ⑥ 地震津波災害に対する町民の危機意識の低下や風化、クラブ活動への参加のためなど考えられる。PTAや子供会への参加を周知していきたい。

町の考えを聞く

高齢者対策

お座敷広場の充実を

地域の協力体制が必要

質問 高齢者はお座敷広場を楽しみにしている。今まで開催した中で参加者は予定の何割が出席しているか。要望があれば増やす考えはあるか。

沼崎町長 高齢者の増加により、一人暮らし老人などの閉じこもり防止を図るため、お互いの交流の場を提供し、老人の方々が元気で生きがいを持って暮らせるように、平成十二年度から実施している。七十歳以上の高齢者が対象で、二十三地区で年一回実施している。平成十六年度の参加者は、八百三十六人で、参加率は約三割である。

要望があれば増やす考えはあるかとのことについては、地域の協力体制が必要であることから、今後の検討課題とさせてほしい。

平成十二年度から実施している。七十歳以上の高齢者が対象で、二十三地区で年一回実施している。平成十六年度の参加者は、八百三十六人で、参加率は約三割である。要望があれば増やす考えはあるかとのことについては、地域の協力体制が必要であることから、今後の検討課題とさせてほしい。



2月に行われた荒川地区のお座敷広場